

網走市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

網走市は北海道の東部オホーツク海に面しており、面積は471km²、人口は39,077人(平成27年国勢調査)である。

平成22年度に網走市地域公共交通総合連携計画を策定、公共交通空白地域の錦町・鉄南地域で、平成25年10月から西山通線を運行。

当該地域住民の通院や買物などの利便性向上、市内の路線バス交通網の充実及び市内全体の交通環境の多様化や快適性の向上を図るために、重要な役割を果たしている。

生活交通確保維持改善計画の目標

- ・日平均利用人数 22人以上
- ・年間輸送人員 7,900人以上
- ・収支率 20%以上

令和2年度事業概要

【系 統 名】西山通線

【運行区間】網走バスターミナル ～ 駒場ショッピングタウン

当該路線は平成23年度に供用開始となった市中心部と高台住宅地を結ぶ都市計画道路を運行する初めての路線バスであり、公共交通空白地域の錦町・鉄南地域住民の通院や買物などの利便性の向上に加え、地域間幹線系統などと接続し、路線バス交通網の充実及び市内全体の交通環境の多様化や快適性の向上において重要な役割を果たしている。

地域公共交通の現況

- ・JR石北線・釧網線(網走駅他5駅)
- ・網走バス(株)(市内線7路線、郊外線4路線)
- ・網走観光交通(株)(郊外線1路線)
- ・(株)網走ハイヤー
- ・網走北交ハイヤー(株)
- ・予約型乗合タクシー(市内1路線)
- ・スクールバス(8路線)
- ・患者送迎バス(5路線)

協議会開催状況

・令和2年6月26日 令和2年第2回協議会を開催『網走市地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について』



・令和3年1月21日 令和3年第1回協議会(書面開催)『網走市地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について』

令和2年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

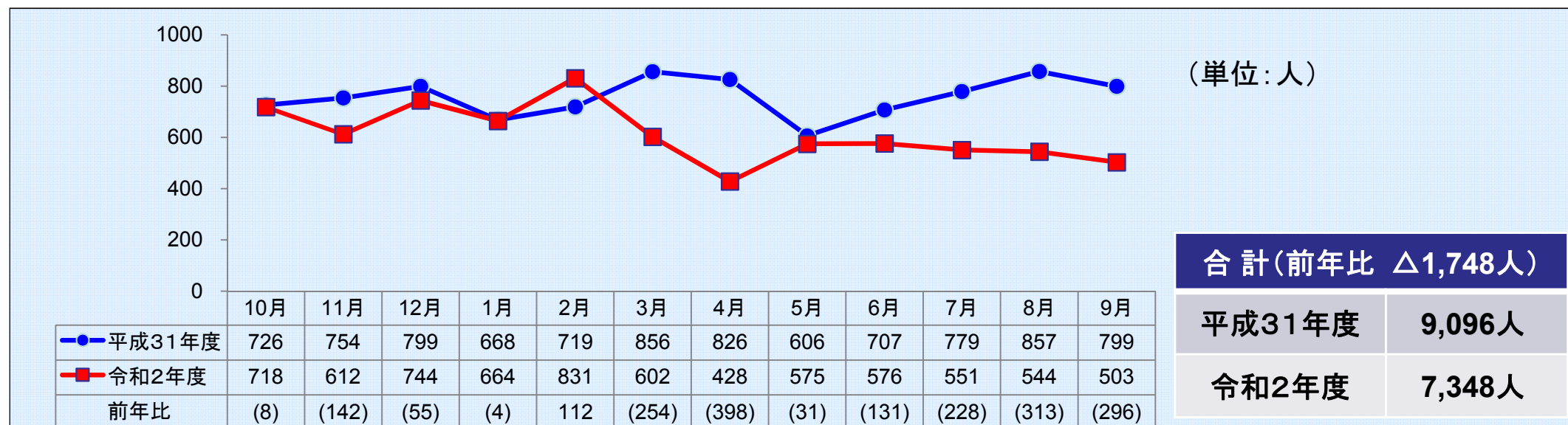
平成24年10月 実証試験運行前アンケート(錦町・鉄南地区)
 平成25年 2月 住民意見交換会
 平成25年 3月 実証試験運行中アンケート(錦町・鉄南地区)
 平成25年 9月 本格運行周知チラシ配布(新聞折込み)
 平成27年11月 地域利用者懇談会
 平成27年12月 小型バス車両の導入
 平成28年 9月 市内催事に路線バス等を出展
 平成28年10月 ダイヤ変更(地域からの提案を反映)
 平成29年 6月 地域協議

平成29年 9月 市内催事に公共交通ふれあいコーナーを設置
 平成29年 10月 地域協議
 平成30年 1月 地域協議
 平成30年 9月 市内催事に公共交通ふれあいコーナーを設置
 平成30年 11月 地域協議
 令和元年 9月 地域協議
 令和元年 9月 市内催事に公共交通ふれあいコーナーを設置
 令和元年11月 各新聞社へかわら版折込
 (新型コロナウイルス感染症の影響によりR2の市内催事は中止)
 令和2年 9月 地域協議

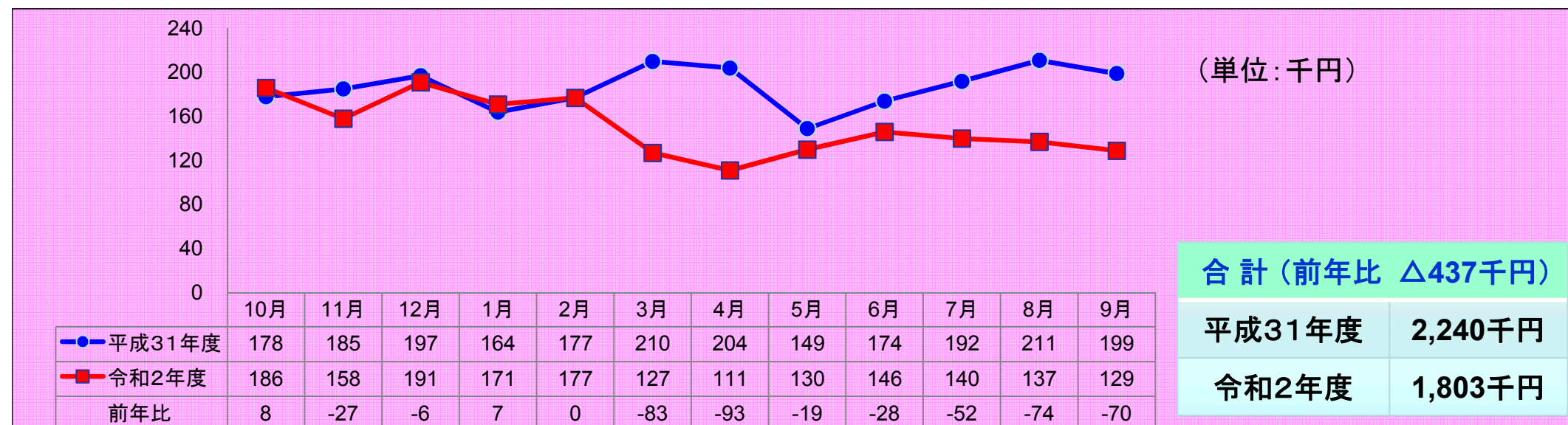
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

【目標】 ・日平均利用人数 22人以上
・年間輸送人員 7,900人
・収支率 20%以上

【実績】 ・日平均利用人数 20.1人/日
・年間輸送人員 7,348人
・収支率 17.2%

・地域住民と利用に向けた協議を継続的に実施し、利用促進の周知を行った結果、地域住民の利用意識が変わったものと認識する。

・実績値は目標値を下回る結果となった。輸送人員は2月までは前年並みであったが、3～9月は利用が少ない状況が続いており、輸送人員の減少は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛などの影響によるものと推察される。

7) 事業の今後の改善点

・地域との意見や情報交換、乗降調査を継続し、利用者ニーズや利用実態の把握に努め、より良い運行体制のあり方を検討する。

・ダイヤ改正の検討など、実施可能なところから取り組みを検討する。

・利用促進については、新型コロナウイルス感染症拡大防止を念頭に置きながら、市広報紙や各新聞社へのかかわり版折込みによる周知のほか、公共交通に接したり、理解を促す機会を設けるなど、バス事業者と連携した取り組みを実施する。

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和3年度分と併せて評価)